

小学校第五学年 図画工作学習指導案

実践日時：2008年11月15日

対象学年：小学校第5学年

場所：東京学芸大学附属小金井小学校

授業者：立川 泰史

1. 題材名 『ここにいるよ』（身近な材料や場所の特徴から意味をつくり、物語を表す活動）

2. 題材の目標

自分でつくった小石の主人公と場所の特徴から思いを広げ、物語の一場面を写真で表す。

3. 題材における評価の観点

- ・主人公の形や色，表情に合った場所を探し，物語の一場面をつくることを楽しむ。（関心・意欲）
- ・小石や場所の特徴をもとに自分のイメージを捉え，表したい物語を広げる。（発想・構想）
- ・主人公と場所の組み合わせ方やその場所にある材料などを生かして工夫する。（創造的な表現の技能）
- ・自他の表し方や感じ方の違いやよさを味わい，物語づくりエピソードを伝えあう。（鑑賞の能力）

4. 題材の概要と活動設定の理由

本題材は，身のまわりにある小石で主人公になるキャラクターをつくり，いろいろな場所に置きながら思いついた物語の一場面を写真で表す。主人公の形や色，探した場所の雰囲気な見え方などをもとに想像を広げ，思いついた物語を楽しむ表現活動である。

ここでは，絵本『ここにいるよ』（神岡学・神岡衣絵共著，ダイヤモンド社，1999）の世界を子どもたちと味わい，物語づくりへの興味を高める。本著は，小さな小石の主人公がさまざまな場所を旅し，その場所ごとで感じたことが「一枚写真のタイトル」に表される。いわば，「一場面読み切りの詩的な物語」という手法をとっており，身近な日常の風景を即興的に切り取る感性のわざは，子どもたちにも十分伝わるものである。こうした表現文化に触れることを契機として作家本人と出会ったり，自分たちで物語づくりに取り組んだりすることを通して，表現の喜びを味わうことが期待できる。また，本著は「写真」という表現技法で物語を構成しており，平素からデジタルカメラの扱いに慣れている子どもたちの活動にそのまま援用できるという利点もある。

主人公をつくるための「小石」を探すところから，できたキャラクターを置く場所を決めるまで，子どもたちは一貫して「鑑賞の能力を働かせる」ことになる。したがってこうした活動は，表現と鑑賞の力の往還的な働きを促すとともに，身のまわりの事物を新たな眼差しで読み直す創造経験の機会として位置づけられる，と考えた。なお，本活動ではグループ活動を基本体系とし，自他の感じ方の「違い」が独自の意味づくりの支援となるように配慮した。

5. 指導計画（全4時間扱）

第一次：『ここにいるよ』の絵本を読み，身近な生活を見直す視点を味わう。（0.5時間）

第二次：小石でつくった主人公を様々な場所に置きながら物語を発想し，撮影する。（1.5時間）

第三次：著者（神岡学氏）と出会い，お話を聴いたり自分たちの作品を紹介し合ったりする。（2時間）

6. 活動の準備

指導者：顔料マーカー，デジタルカメラ，児童作品鑑賞用モニター

児童：校内にある小石

7. 題材の展開

展開	○主な学習活動 ・ 予想される児童の姿	◇指導上の留意点
<p>第一次 「物語世界へ」</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 絵本『ここにいるよ』を見て物語を味わおう </div> <p>○ 絵本『ここにいるよ』を見て、物語を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主人公の小石が、かわいい。 「なぜ、かわいく見えるの？」 → 写真の撮り方，場所との組み合わせ ・ 一場面ごとの写真のタイトルが面白い。 「なぜ，面白いの？」 → 主人公の気持ちのつぶやきになっているから。写真を見ただけでは伝わらないことをタイトルの言葉で表しているから。 	<p>◇ 実物投影機を使って拡大表示する。</p> <p>◇ 身近な場所の風景から物語ができることに気づかせる。</p> <p>◇ 多様な意見や感想を板書し，共感しながら物語を読み解き・読み直していく態度を促す。</p>
<p>第二次 「みる・つくる・つくり直す」</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 小石の主人公をつくり，物語の一場面を想像してみよう </div> <p>○ 校内で見つけた小石を主人公に見立て，物語を思いつくような場所を探す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 青くて丸い主人公にしたから，物語の場面は「水」のある場所にしようかな。 ・ 小さく赤い主人公を紅葉した葉っぱに乗せて，「秋」の物語にしようかな。 ・ 小さな壁の穴を見つけたので，主人公の家にしてみよう。 <p>○ 主人公の形や表情と場所の雰囲気や特徴などをもとに物語の一場面を想定し，カメラで撮影する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 撮影した画像は，実際に見た風景の様子と，どこか違って感じるよ。 	<p>◇ グループで探す場所の感想や意見を交わし合い，様々な物語の可能性や違いを確かめるように促す。</p> <p>◇ 同じ場所でも，見方や感じ方を変えると違った物語ができることを試す楽しさを知らせる。</p> <p>◇ 「グループでの気付き」や「独自のイメージ」から表したい物語を決めたら，「撮影のしかた」を工夫する大切さに気付かせていく。</p>
<p>第三次 「出会い・伝える」</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 絵本の作者と出会い，自分たちの物語を伝えよう </div> <p>○ 作家（神岡学氏）と出会い，自分たちがつくった物語にタイトルをつけて伝え合う。</p> <p>○ タイトルをクイズにしたり，作家からのコメントをもらったりしながら，多様な感じ方の違いを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が考えた物語とまったく違うタイトルの付け方があることに気付いた 	<p>◇ 作家の物語づくりにある隠れた工夫や本物の主人公たちに触れることを通して，文化的な表現世界のつくり手と出会う機会とする。</p> <p>◇ 作家や友だちの見方・感じ方，表現の違いを認め，「つくる喜び」と「みる楽しさ」を味わう生成的対話の言語活動を促す。</p>

8. 参考資料

以下にあげるのは、神岡氏の著書にある作品から触発されて実際に子どもたちが表現した物語作品の画像である。自分の表現体験から神岡氏の作品世界をくらべて味わうことができるようになり、「新しい読みの視点」をひらいたことは、子どもたちの感想からもわかる。



あたらしい服



うちにおいでよ



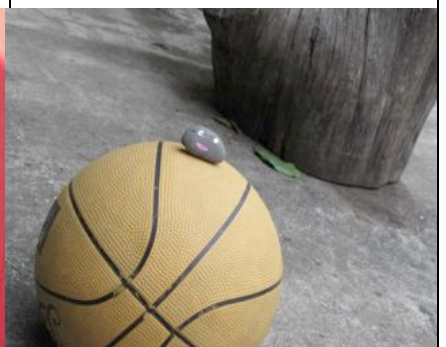
洗たく日和



ともだちパーティー



とおれるよ



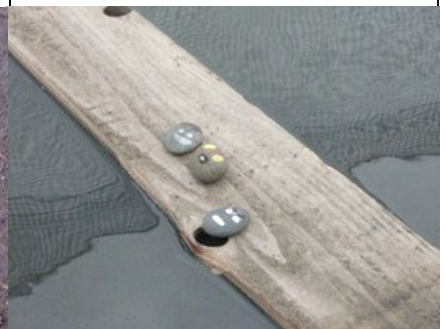
地球一周



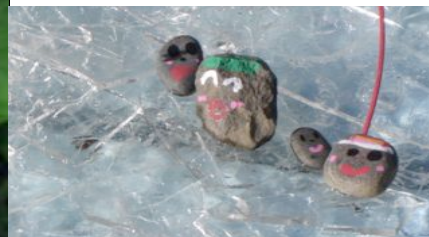
今夜は、ぶとう会



緑のベッドでおやすみ



おんせん旅行



氷の上ですべるよ



アワ・アワのわ!